



“デジタルサイネージとカメラを活用したトラック入出場管理”

成田国際空港株式会社 × 株式会社シーイーシー



本日のスピーカー



株式会社シーイーシー
営業本部 製造営業部

奥野 雄大

人物

出身：大阪府

（奈良県、香川県、岐阜県、滋賀県）

趣味：スポーツ観戦

ミッション

- より多くのお客様における物流課題に対してを解決に導くけるよう日々活動しております。
- 既存のお客様における新たな課題、問題点についてお客様と一緒に解決に向けた取り組みを行います。

会社概要

会社名 株式会社シーイーシー
Computer Engineering & Consulting Ltd.

連結子会社 8 社

本社所在地 〒150-0022
東京都渋谷区恵比寿南1-5-5 JR恵比寿ビル

代表者 代表取締役社長 姫野 貴

創立年月日 1968年2月24日

拠点（当社） 東京（品川）、神奈川（座間・川崎）、愛知（名古屋・豊田）
大阪、福岡、富山、宮崎

上場年月 2022年4月（プライム市場）
2001年7月（東証一部）

事業内容 **● インテグレーションセグメント**
システム・インフラ構築、マイクロソフトサービス、
マイグレーションサービス
● コネクティッドセグメント
データマネタイゼーション、クラウドサービス開発、
制御シミュレーション、品質マネジメント
● ソリューションセグメント
データセンター、セキュリティ、業界特化型ソリューション

資本金 65億8千6百万円

売上高 562億（2025年1月期）

従業員数 2,470名（2025年4月1日現在）

行動目標 **高品質のICTで顧客の事業に貢献する**

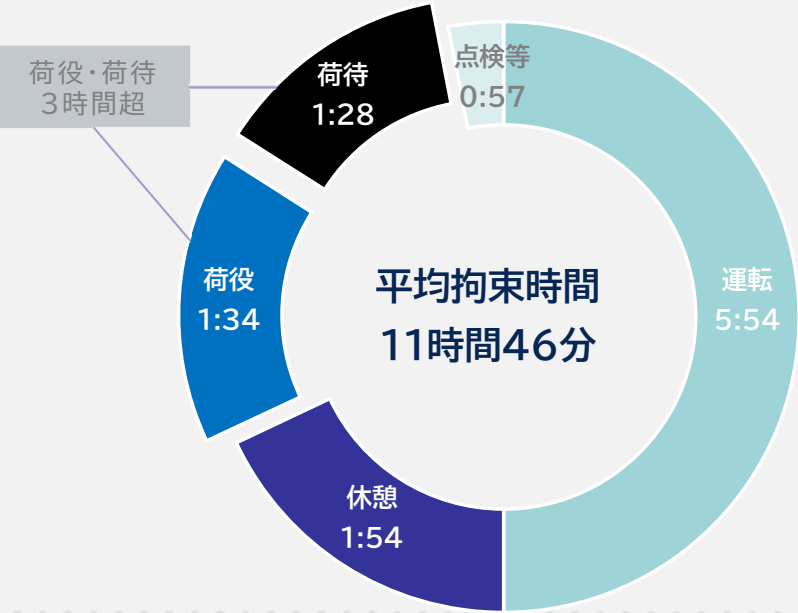
物流DXの取り組み



物流効率化法について

荷待がある1運行の平均拘束時間と内訳

※ドライバー実態アンケート調査(R6)より



荷主・物流事業者の 「取り組むべき措置」「判断基準」

取り組むべき措置	判断基準(取組みの例)
荷役等時間の短縮	パレット等の利用、標準化、 入出庫の効率化に資する資機材の配置、 荷積み・荷卸し施設の改善など
荷待ち時間の短縮	適切な貨物の受取・引渡日時の指示、 予約システムの導入など
積載効率の向上等	余裕を持ったリードタイムの設定、 運送先の集約など

1運行あたりの荷待ち・荷役等時間を計2時間以内に削減

出典:「物流効率化法」理解促進ポータルサイト <https://www.revised-logistics-act-portal.mlit.go.jp/5minutes/>

物流DXの取り組み 一例

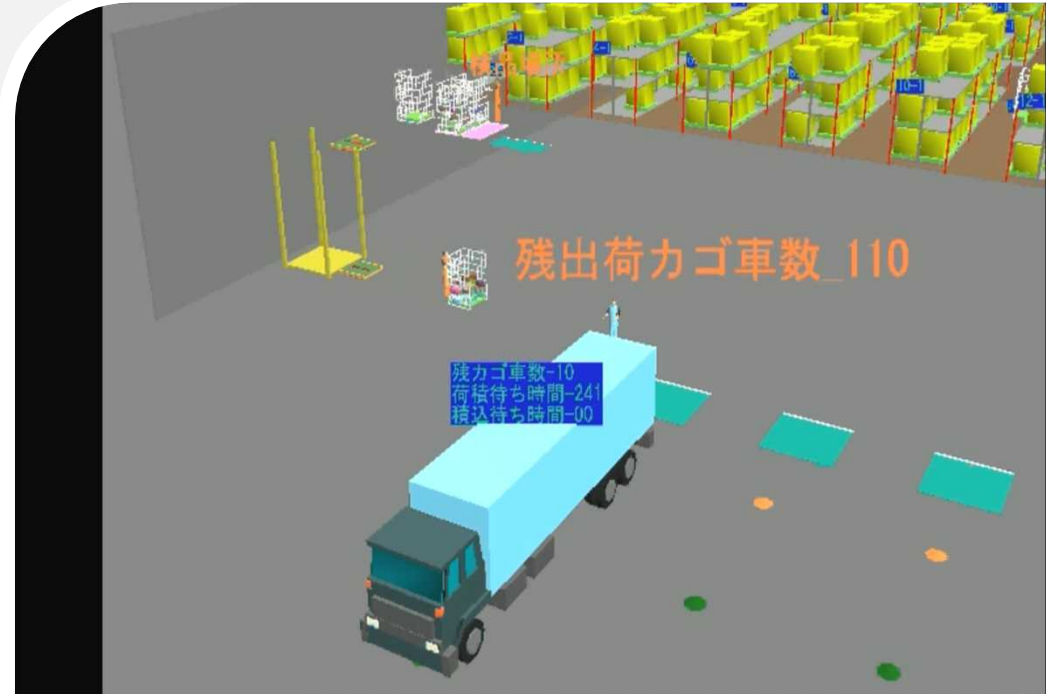
シミュレーションソフトの活用 -RaLC-

インプットデータ

- ピッキングリスト枚数
- 入荷データ
- 1枚当たりの行数
- 作業スケジュール
- 1行当たりの個数
- 配員計画
- バッチ数

No	車両名称	入庫予定日時	パース到着日時	パース待ち時間(分)	パース出発日時	荷待ち時間	積込み待ち時間	積内滞留時間
1	トラック_001	2025/9/10 9:10	2025/9/10 9:10	0:00	2025/9/10 9:38	0:04:23	0:22:57	0:28:16
2	トラック_002	2025/9/10 9:20	2025/9/10 9:21	0:01	2025/9/10 10:09	0:20:22	0:28:34	0:49:57
3	トラック_003	2025/9/10 9:30	2025/9/10 9:31	0:01	2025/9/10 10:38	0:43:25	0:23:41	1:08:11
4	トラック_004	2025/9/10 10:10	2025/9/10 10:10	0:00	2025/9/10 11:05	0:33:28	0:21:28	0:55:52
5	トラック_005	2025/9/10 10:20	2025/9/10 10:21	0:01	2025/9/10 11:38	0:53:18	0:23:43	1:18:02
6	トラック_006	2025/9/10 10:30	2025/9/10 10:39	0:09	2025/9/10 12:07	0:58:33	0:29:34	1:37:36
7	トラック_007	2025/9/10 11:10	2025/9/10 11:10	0:00	2025/9/10 12:34	0:56:40	0:26:26	1:24:02
8	トラック_008	2025/9/10 11:20	2025/9/10 11:39	0:19	2025/9/10 13:03	0:55:32	0:29:08	1:43:55
9	トラック_009	2025/9/10 11:30	2025/9/10 12:08	0:38	2025/9/10 13:33	0:55:00	0:30:05	2:03:55
10	トラック_010	2025/9/10 12:10	2025/9/10 12:35	0:25	2025/9/10 14:01	0:58:48	0:27:35	1:51:34
11	トラック_011	2025/9/10 12:20	2025/9/10 13:05	0:45	2025/9/10 14:32	0:56:27	0:30:37	2:12:12

2時間以内に対応可能か検証を実施



物流DXの取り組み 一例

バース管理システム -LogiPull-

- 入退場を手書き記入/入退がノーチェックの為、セキュリティ上問題
- ETCや車番カメラでの車両検知によりハンズフリー入退
- 外部機器との連動によるセキュリティ強化

- 渋滞・ドライバー待機時間が問題
- 来場の分散化で待機時間を削減
- 物流センターの入出荷作業の事前準備により効率化

バース管理予約



車両入退管理



- 紙の受付表の為、状況把握等に時間が掛かる
- ドライバー・作業員が待機時間を読めない
- どのPCからでも情報共有
- 来場状況から待機予定時間を把握

受付管理



バース実績管理



- バースの荷積み/荷卸し時間が把握できない
- 利用時間の計測で荷積/卸し時間の記録と分析用データとして活用

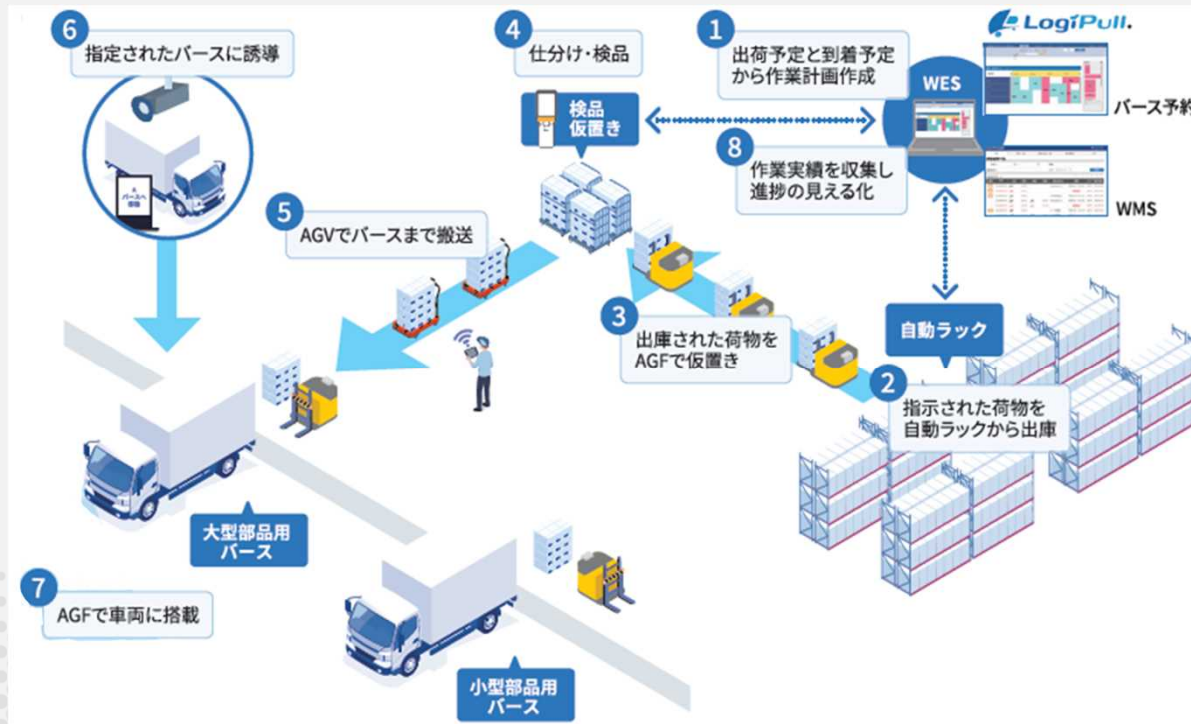
車両誘導



- 車両誘導に人件費が掛かる
- 自動電話/SMS/メール/電光掲示板など呼出業務のシステム化・省人化

物流DXの取り組み 一例

庫内業務効率化 -LogiPull WES-



運用イメージ 出庫業務のケース

WES (Warehouse Execution System) とは

従来のWMS(在庫管理システム)と
自動化設備の制御を行うWCS(倉庫制御システム)の中間に位置する**倉庫運用管理システム**

入出荷予定から作業計画を作成し、
自動化設備を効率よく運用します

成田空港様での取り組み



成田国際空港株式会社

LogiPull + カスタマイズで解決

導入機能

- 受付
(チェックインカウンター)



導入機能

- 入退 (車番カメラ)
- 誘導 (電光掲示版)(自動電話)



導入機能

- アプリ予約
- 実績





“誰でも迷わない”現場へ 新しい運用フローの全貌

成田国際空港株式会社



目次

1 会社・施設概要

2 導入前の課題・背景

3 システム導入のアプローチ

4 実際の仕組み・運用フロー

5 導入プロセス・現場対応

6 導入効果・現場の声

7 今後の展望・要望

8 まとめ

本日のスピーカー



成田国際空港株式会社
営業部門 貨物営業部
貨物営業グループ 主任

大島 隆寛

経歴

- 2020年入社、貨物営業部にて貨物施設の運営・整備を担当
- 上屋事業者や現場スタッフとの調整・現場改善プロジェクトを推進

ミッション

- 現場の安全・効率化を最優先に、空港物流の進化を支える
- 現場の声を活かした業務改善・デジタル化の推進

会社・施設概要（成田国際空港(株)について）



提供：成田国際空港株式会社

成田国際空港株式会社の役割

空港建設・運営、貨物施設の整備・運営

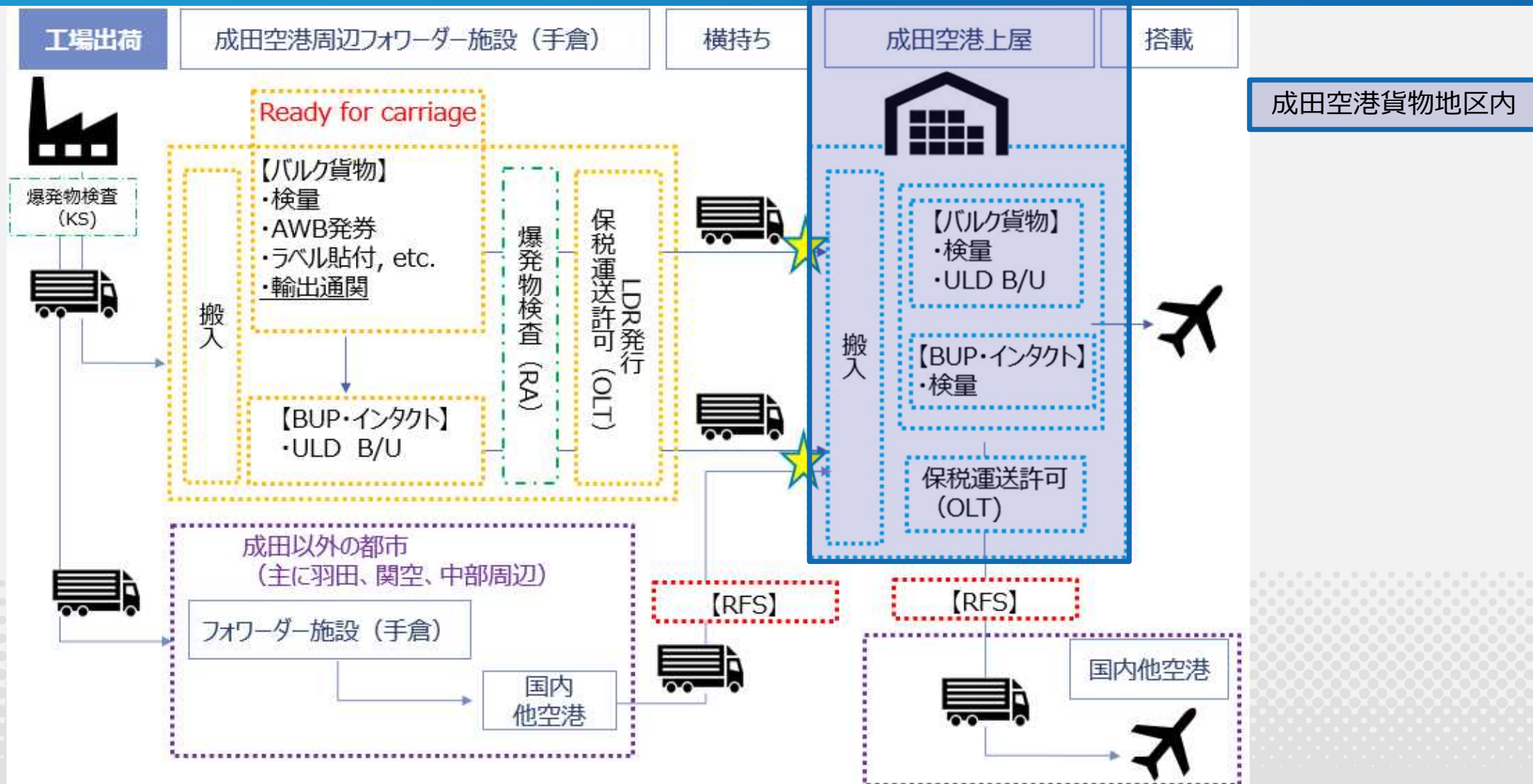
貨物営業部の業務

貨物上屋の整備・運営
航空会社・上屋事業者への貸付

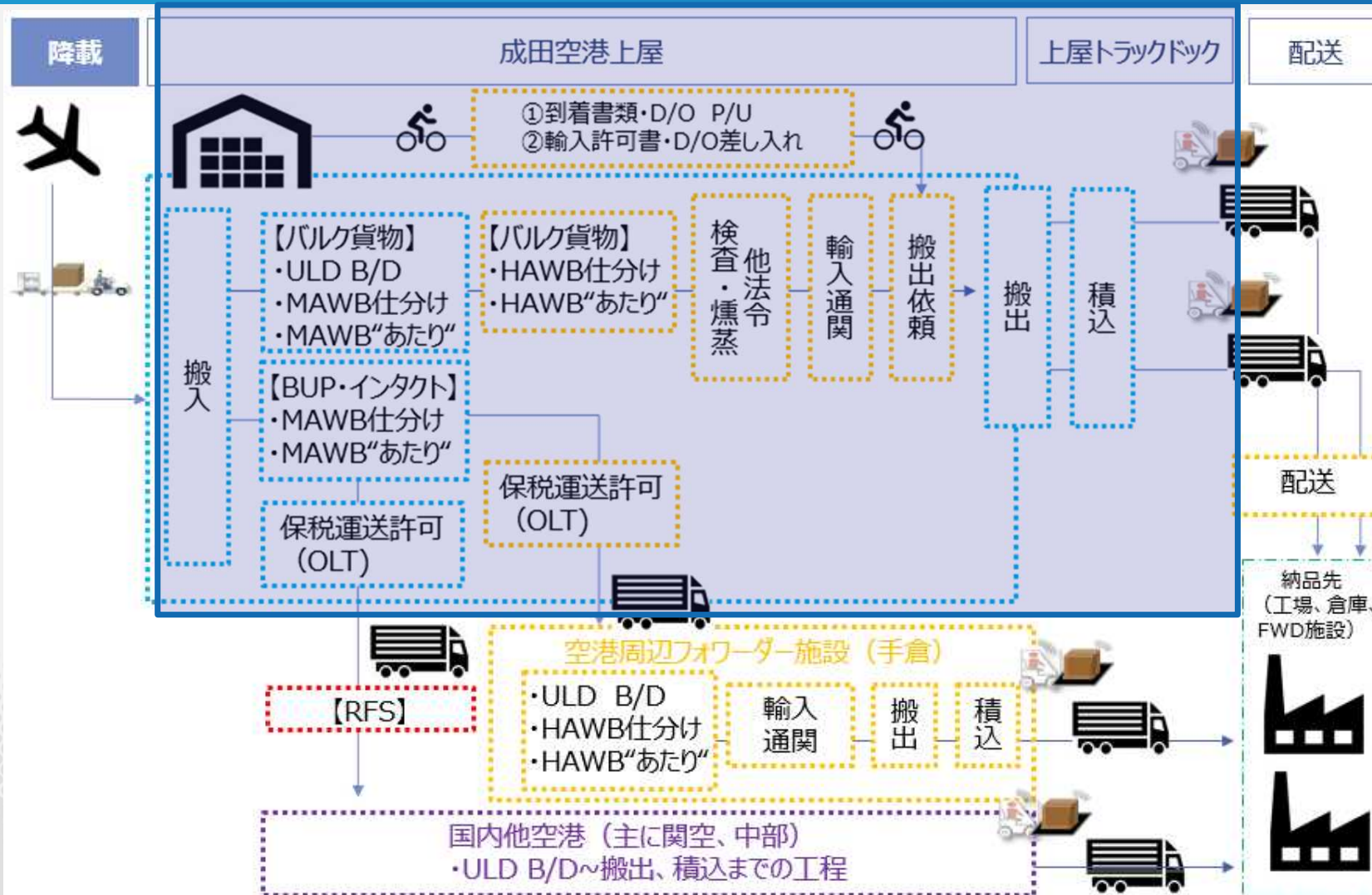
成田空港の国際貨物取扱量

国内シェア60%超

会社・施設概要（輸出貨物の流れ）



会社・施設概要（輸入貨物の流れ）



成田空港貨物地区内

導入前の課題・背景



イメージ写真（実際の現場写真ではありません）

- ・ 施設レイアウトの老朽化・拡張による非効率
- ・ 30年以上変わらないアナログ運用
（紙台帳・手作業・属人化）
- ・ 最繁忙期は上屋前に30台超のトラックが列を作る
路上駐車・渋滞による事故多発
（貨物地区内8,000名以上が働く現場での安全課題）
- ・ 上屋事業者ごとに異なる運用統一システムの必要性
- ・ 待機車両の削減
- ・ 出荷準備ができず、作業時間が多く発生していた

システム導入のアプローチ



イメージ写真（実際の現場写真ではありません）

上屋事業者・運送や通関の事業者団体と連携しながら、
統一運用を目指す

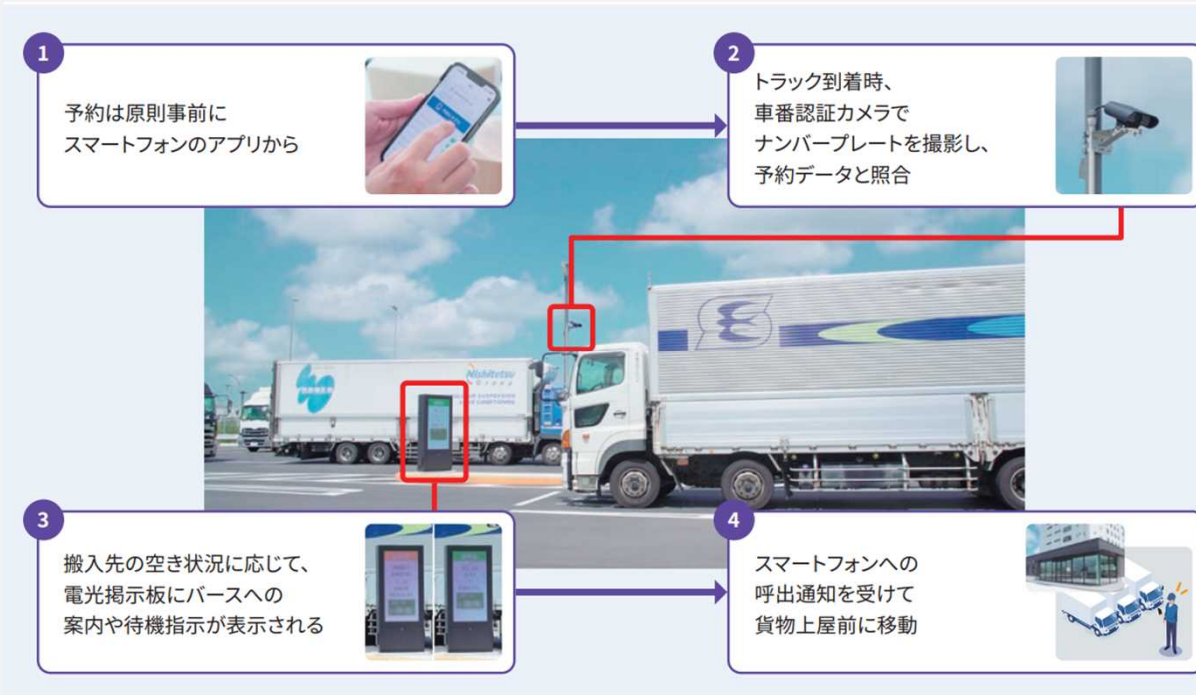
ベンダー選定ポイント

- ・道路の渋滞緩和、事故削減
- ・業務の効率化、省人化
- ・安全の確保
- ・ドライバー視点の使いやすさ

LogiPullを選定した決め手

- ・複数事業者の要望を反映できる
- ・関係各社で納得感の得られる運用ルールが可能
- ・カスタマイズ対応力・現場要件への柔軟な対応

実際の仕組み・運用フロー



- ・トラック待機場の新設
(貨物地区内外に用意、呼出制)

- ・車番認証カメラ・電光掲示板による自動受付・誘導

- ・スマートフォンアプリによる事前予約・電話呼出

- ・管理画面でのリアルタイム状況把握

導入プロセス・現場対応



イメージ写真（実際の現場写真ではありません）

関係各者と協力した要件定義

上屋事業者・ドライバー向け説明会の実施

デモ版提供・現場目線での説明

事前周知・運用開始後のサポート

現場の声



ドライバー

これなら使えそう！



上屋事業者

運用不安が解消できた



上屋事業者

車番認識のデモがわかりやすい

導入効果・現場の声

貨物地区事故発生件数



路上駐車・渋滞の**大幅減少**、**事故9割削減**

トラック入場業務の省人化・効率化

予約率：
運用開始直後90%超 → **現在ほぼ100%**

現場の声



ドライバー

順番見える化で安心感



ドライバー

順番待ちのトラブルが減った



上屋事業者

作業時間の管理が簡単になった

※導入当初 2023年4月

今後の展望・要望



イメージ写真（実際の現場写真ではありません）

荷主・フォワーダーまで巻き込んだ施策

さらなる混雑緩和・自動化の強化

AIカメラ等による動態・バース管理の精緻化

シーイーシーへの期待



成田国際空港

新たなツール等を用いた
効率化の提案



上屋事業者

個別の効率化カスタマイズ



上屋事業者

データ分析を
支援する仕組み